

『百年ふじの里』構築計画

品種名	交配・来歴等	収穫時期	貯蔵性	特性
百年ふじ	らくらくふじ枝変わり	11月上中旬	常温で約3カ月	濃赤色で縞が不明瞭 11月初旬収穫可能

越の荻原安治さんが三島系ふじの中から選抜・育成した優良系統。苗木販売元の(株)天香園の百周年を記念して、百年ふじと名付けられました。

数多くのふじ系統のなかでも色上がりが格段に早く、10月末には濃赤色に仕上がり、糖度も上がりや蜜入りも早いため、11月初旬にはまとまった量の収穫ができることが最大の特徴です。H29の秋の日照不足により、ふじ全体に着色遅れが顕著な中、百年ふじの色上がりはひと際早く、園地の中でも目を引く存在でした。5年前から生産振興を始め、現在では市内各地で百年ふじが栽培され、生産者側からも高評価を得ています。百年ふじは地域適合性が非常に高い系統であると言えます。平成30年春JA中野市りんご・もも部会では、百年ふじを大黒柱に生産基盤の再構築を図ること決定しました。

(参考) 苗木価格：1年生@2,160円/1本      2年生@2,500円/1本

◆ 年度別苗木導入数 (マルバ)

**6年間合計本 3,500 ⇒ 面積換算約 17.5ha**

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	合計
百年ふじ	456	500	473	496	465	1,100	3,500

【百年ふじの里構築への経過】

- ◆ H20～：現地検・栽培試験開始 ⇒ 組織的導入に5年を要する
- ◆ H25～：百年ふじ苗木組織的導入開始
- ◆ H30春：JA中野市りんご・もも部会でふじ導入系統を百年ふじへ一本化
- ◆ H30秋：百年ふじ苗木導入本数が3,500本に到達 ⇒ 面積換算 17.5ha
- ◆ H30秋現在で百年ふじ面積 17.5ha ⇒ JA中野市部会りんご面積の約20%に到達
- ◆ H31～33：中期的計画で百年ふじの導入を進める。1,000本/年⇒3カ年で15ha拡大計画
- ◆ 目標：H33秋にはJA中野市部会りんご面積の約30%到達見込み(約32.5ha)
- ◆ 生産量見込み：H33で200t⇒約20,000箱(10kg換算)